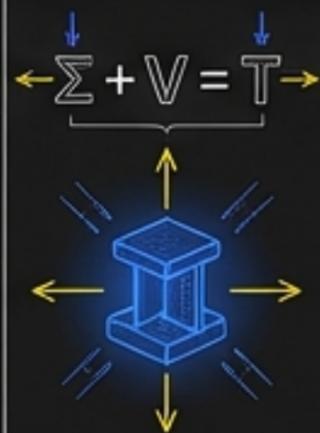


目次

必然の成功

Chapter I: 価値の再定義



何に価値を置くか

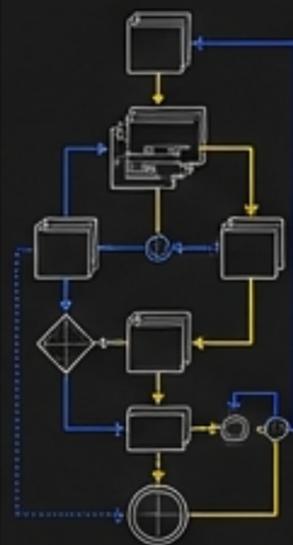
Chapter II: 人間観の再構築



Chapter III: 変化の思想



Chapter IV: 実践原則

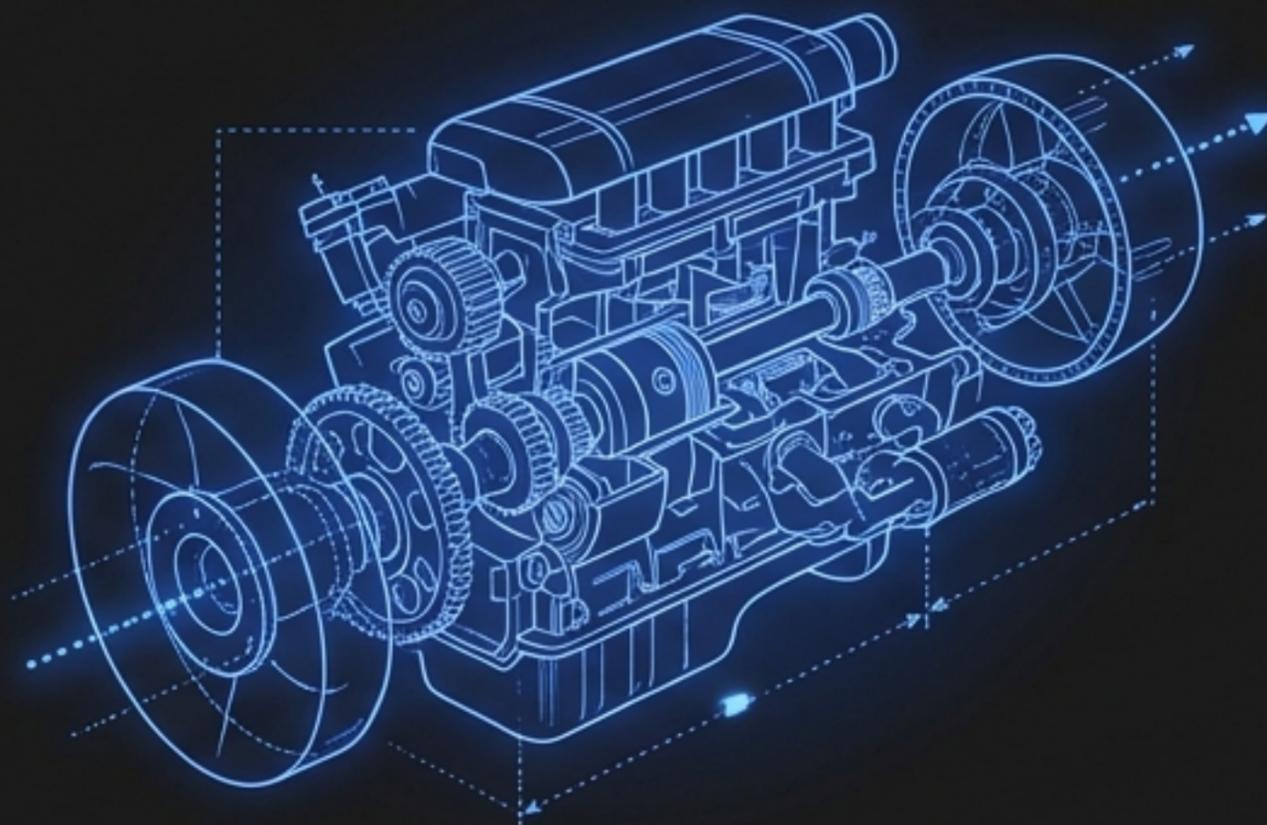


勝ちに価値なし、勝ちの「設計」に価値あり



現象 (Phenomenon)

奇跡を祈るな

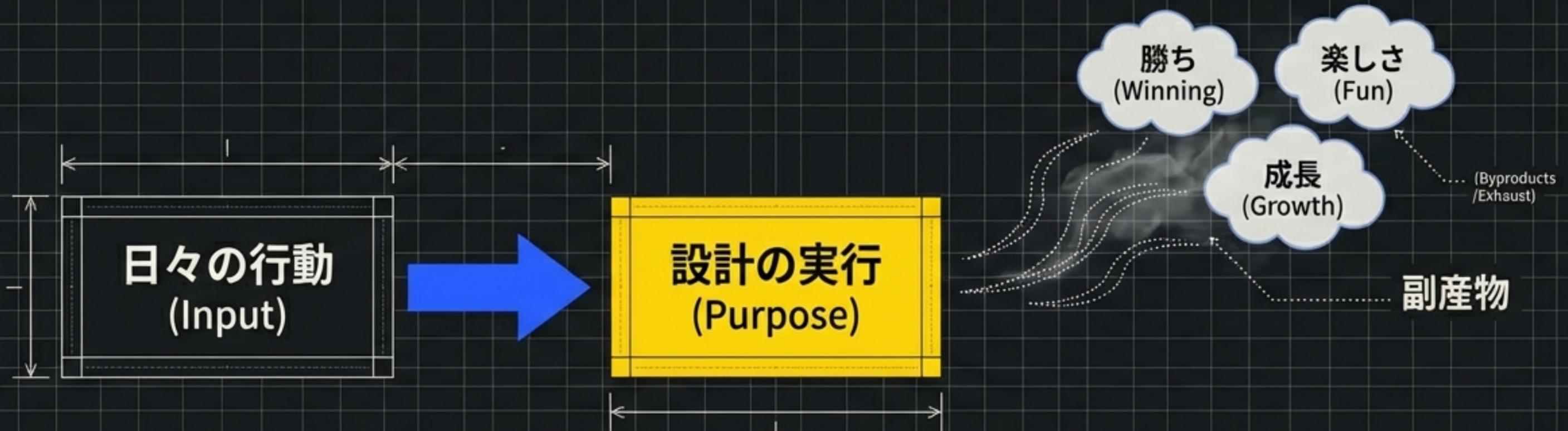


因果 (Causality)

必然を設計せよ

奇跡ではなく、必然を設計せよ。

目的と副産物の分離



- 上達と後悔は切り離せ。
- 勝ち単なる「排気ガス」に過ぎない。

感情や結果を目的にするな。

評価は「観測値」、信頼は「契約履歴」



- お願いされることは「資源配分」に過ぎない。
- 評価を追いかけるな、実績を積み上げろ。



他者評価 (Evaluation)

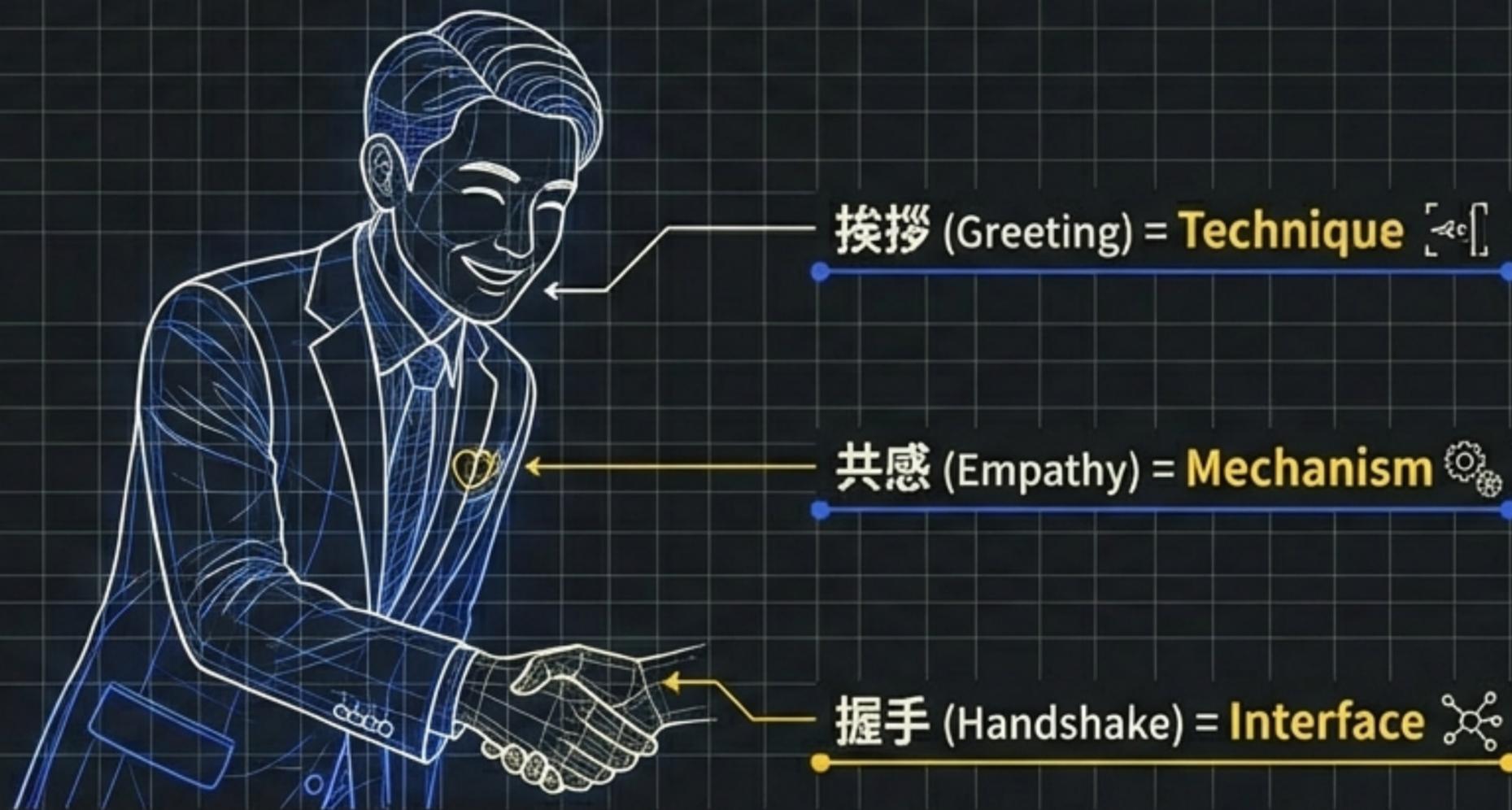
気まぐれな観測値

信頼 (Trust)

契約更新の履歴

他者評価を価値の根拠にするな。

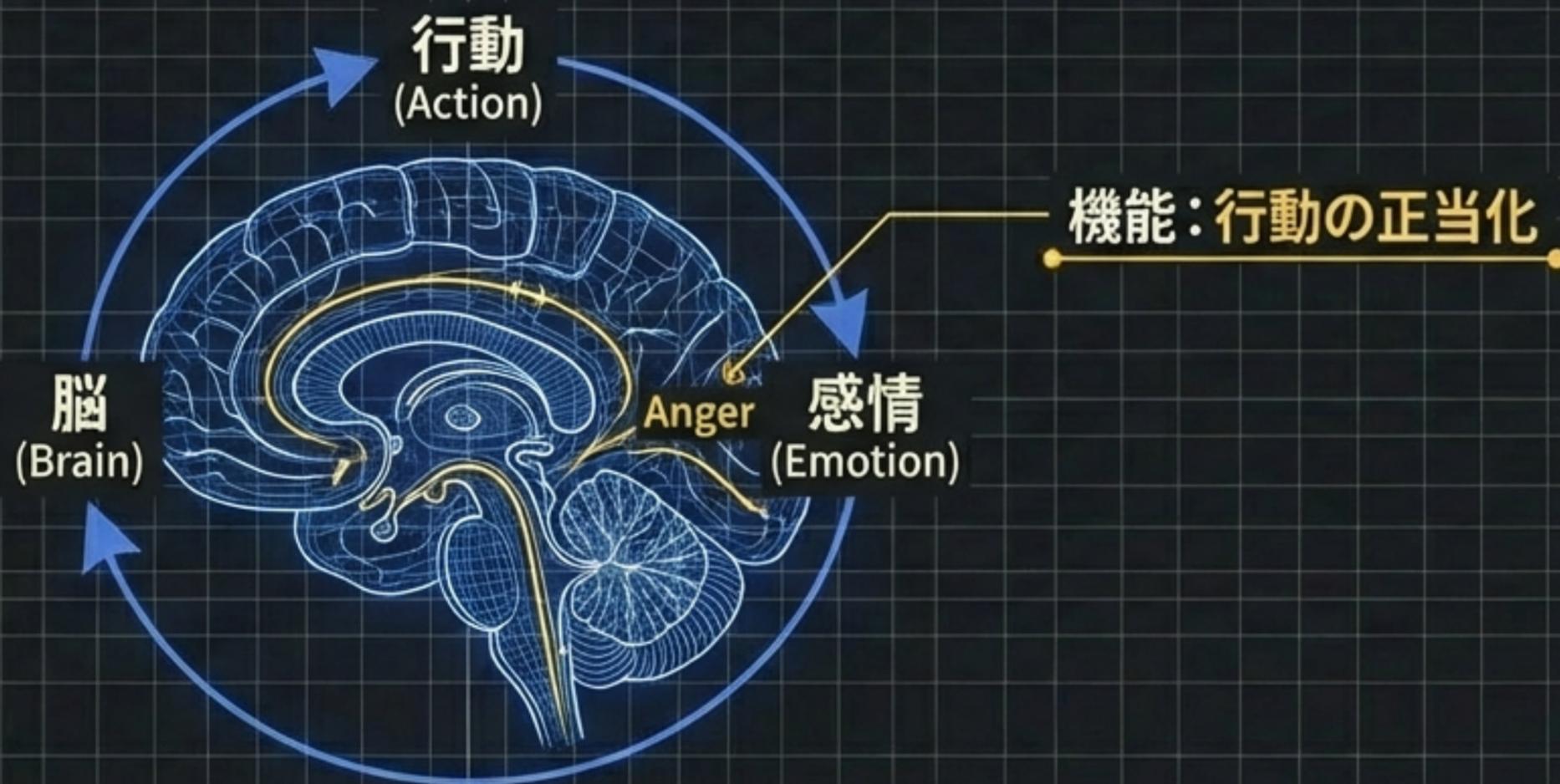
人間力は「技術」である



- 人間関係は魔法ではない。
- 温かさは「設計」された選択である。

人間関係は構造であり、設計対象である。

感情の解体：怒りは「機能」に過ぎない

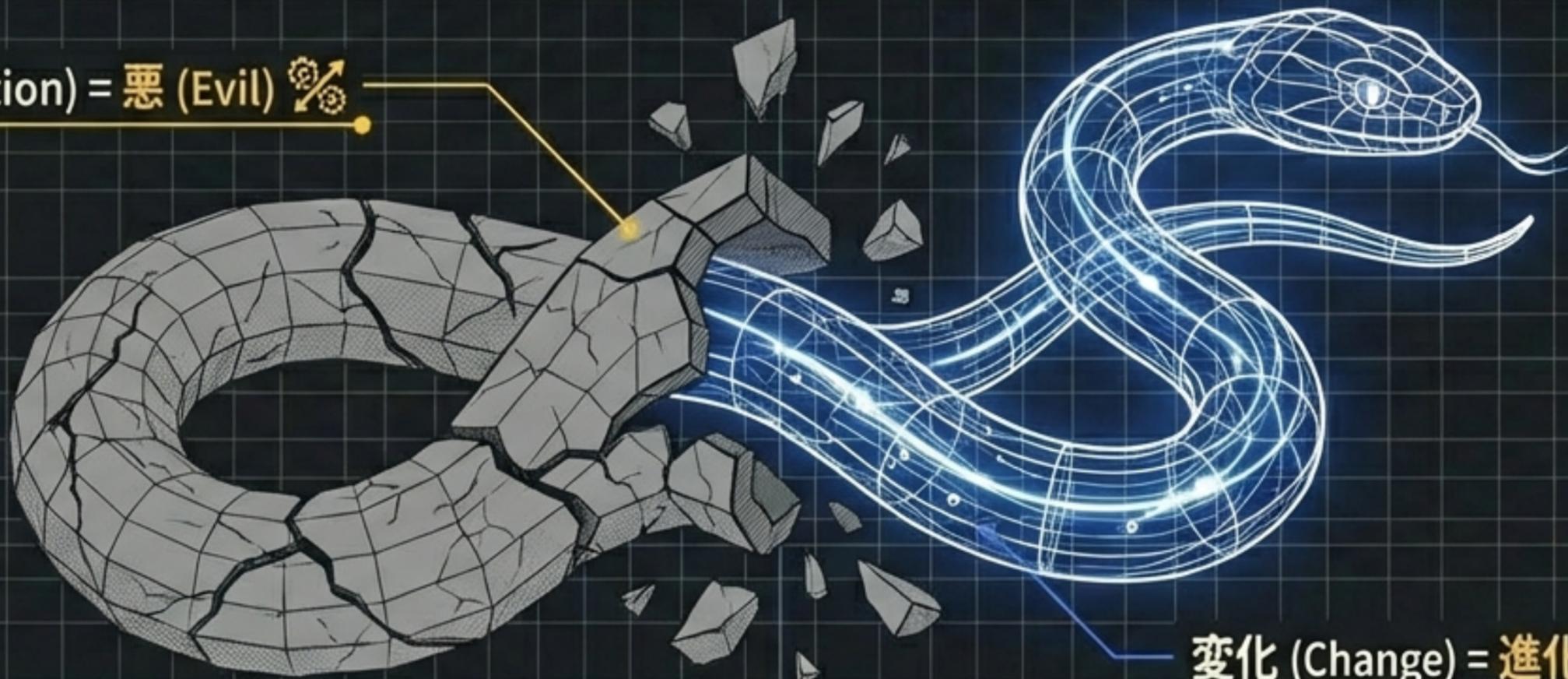


- すべての感情は捏造である。
- 脳はあなたの行動を正当化するために物語を作る。

脳が作る「物語」に騙されるな。

成長 = 価値観の変化

停滞 (Stagnation) = 悪 (Evil) 



変化 (Change) = 進化 (Evolution) 

- 変わらないことは現状維持ではない。後退だ。
- どう変わってもいい。とにかく価値観を更新せよ。

固定化は衰退。可変性こそ進化条件。

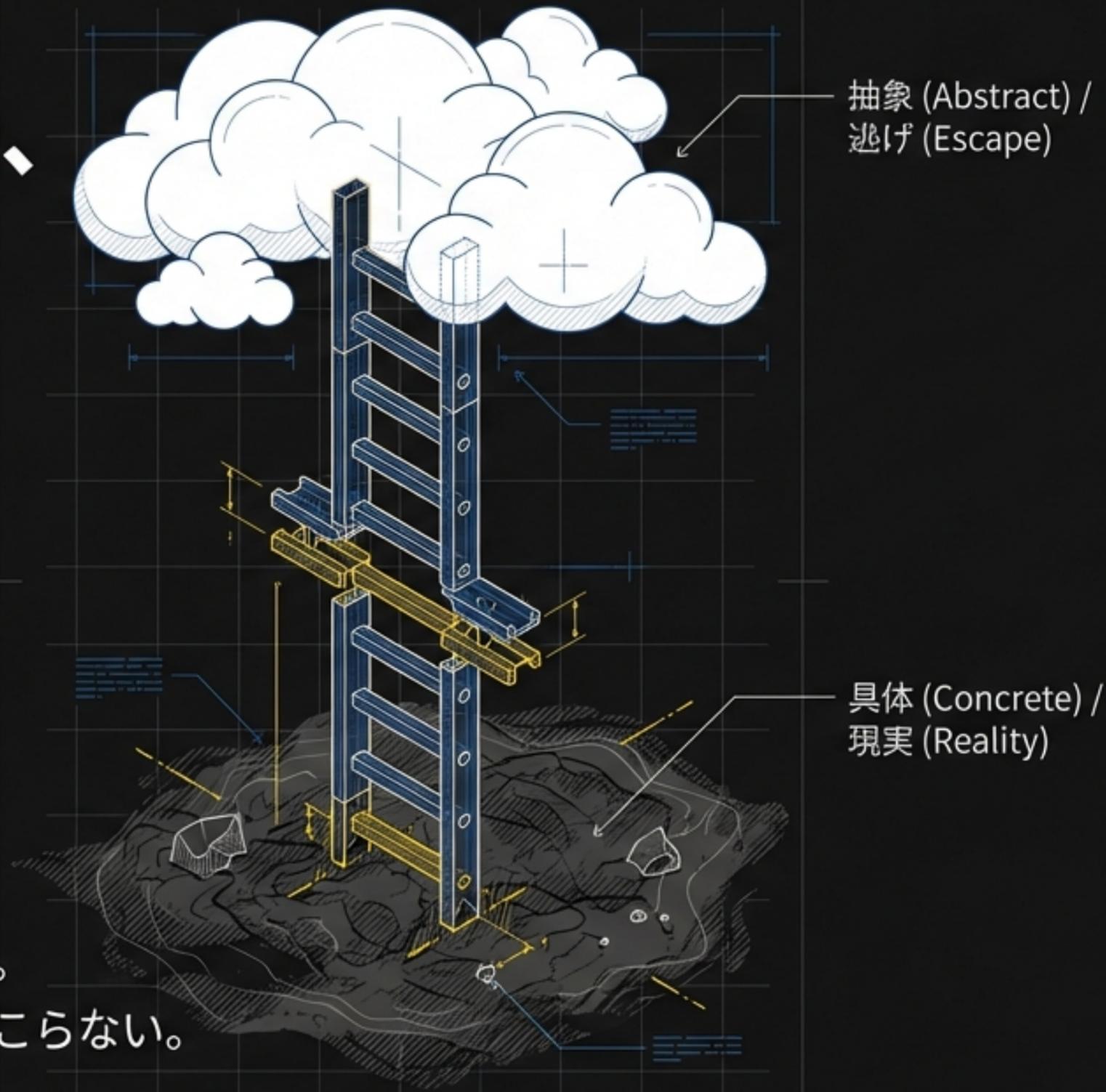
過去の否定： sunk cost を破壊せよ

過去の栄光
(Past Glory)

- いままでやってきたことに意味はない。
- 「意味」に固執すると、更新が停止する。

意味の固定化は、更新停止を招く。

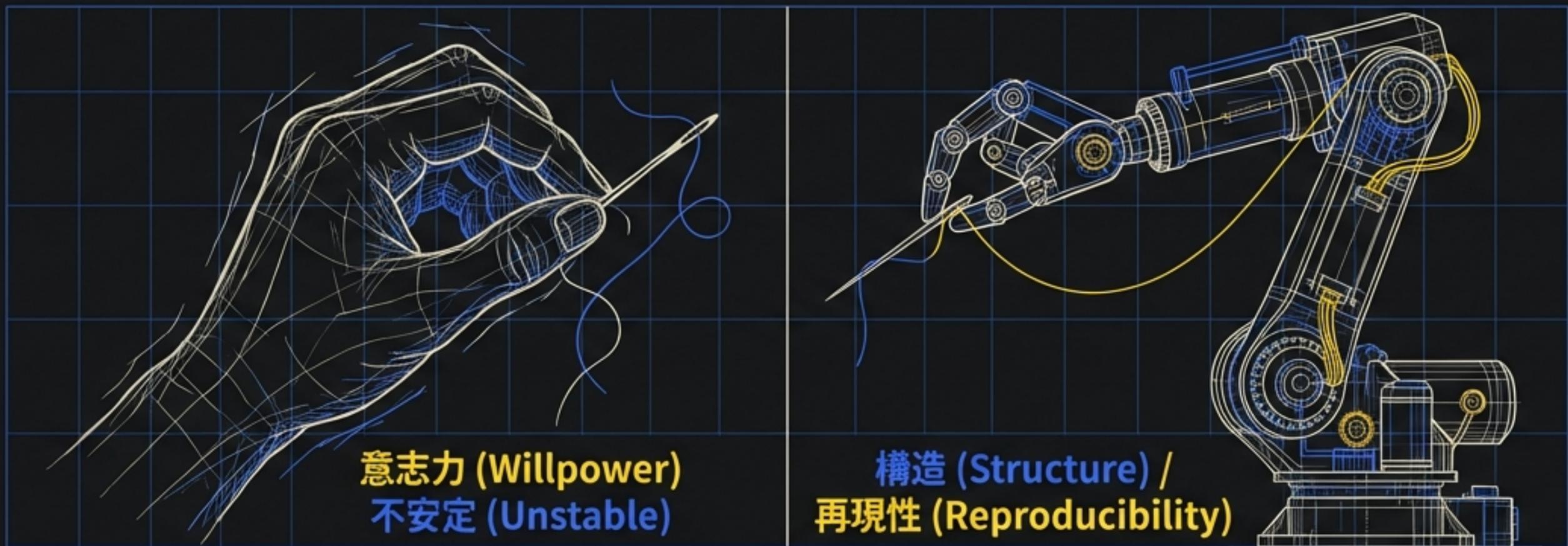
抽象から逃げるな、 具体的に降りろ



- 抽象論は安全地帯への逃避である。
- 更新は、泥臭い具体の中でしか起こらない。

具体でしか更新は起こらない。

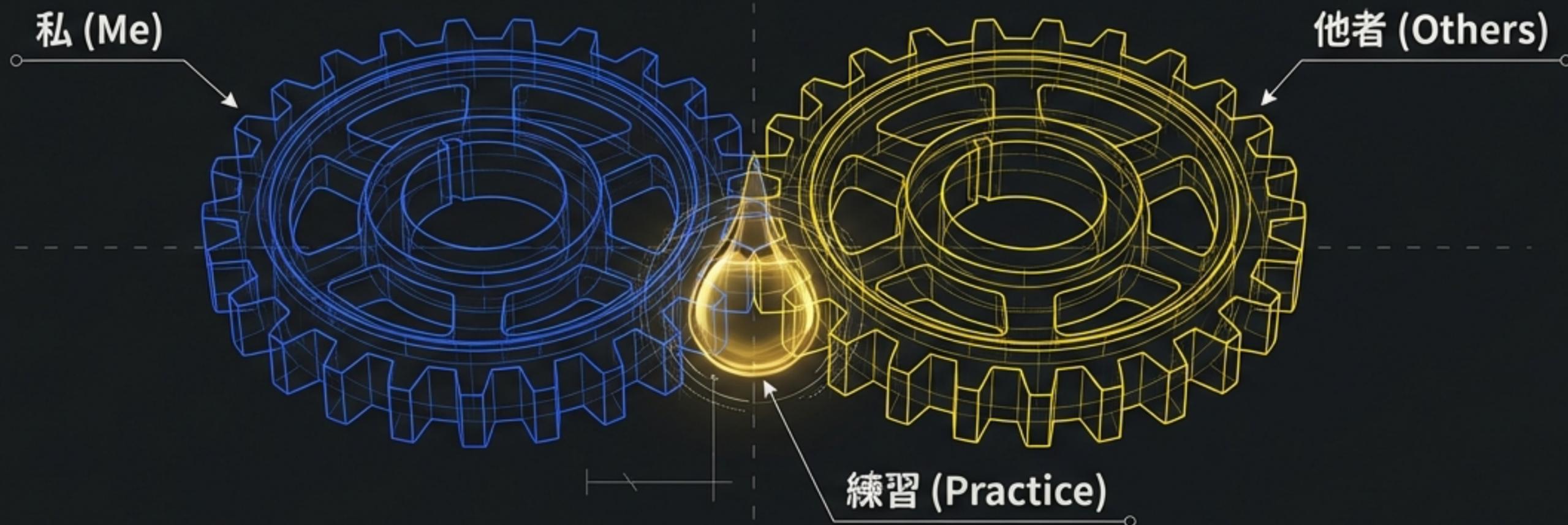
集中力に頼るな、構造で再現せよ



- 自分の「状態」を信じるな。
- やる気が必要な時点で、設計が間違っている。

状態に依存するな。構造で再現せよ。

練習は「協働」のための愛情表現



- 練習は関係の摩擦を減らす技術。
- 協働を成立させるための、相手への「愛情」である。

練習は構造的共同制作である。

全体構造の俯瞰：四層否定構造

結果 (Results)
→ 因果 (Causality)

他者評価 (Evaluation)
→ 可変性 (Variability)

固定化 (Fixation)
→ 設計 (Design)

感情 (Emotions)
→ 再現性 (Reproducibility)

中島信頼
思考体系

結論

価値は「結果」や「感情」には宿らない。
価値は、再現可能な「因果と設計」にのみ宿る。





Just Do It!